

# 平成十八年度 愛知中学校入学試験問題

## 国 語

### 注 意

1. 「始め」の合図があるまでは、この「注意」をよく読んでいてください。
2. 国語の試験時間は50分です。問題は□一・□二です。
3. 答えはすべて解答用紙に記入してください。
4. 解答用紙には必ず氏名、受験番号を書いてください。
5. 問題の内容についての質問には応じません。  
印刷のはっきりしないところがある場合には、だまって手をあげて  
係の先生にきいてください。
6. 解答に字数制限がある場合は、句読点を一字としてかぞえます。

一

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

子どもたちの読書の実態を見てきて、つくづく思うのは、「本を読むのはいいことだ」という認識はあっても、それはなぜかということや、どんな本がいいのかということまできちんと考えておかないかぎり、子どもへの働きかけがかえってマイナスになりかねないということです。「なんでもいいからたくさん」では、想像力や思考力を働かせて読むという力は身につきませんし、子どもが手に取る本の質は明らかに悪化します。「手当たりしだいに読んでいけば、いい本にぶつかる」という意見も聞きますが、それは(1)本の厚さや文字の多さにびくともしない読書力がついでからのことです。「名作だからいい本だろう」「子どもにはぜひ名作を読ませておかねば」と思っても、それがずさんな\*ダイジェストだと、本物の本のおもしろさは味わえませんし、本というものを見くびる結果にもなりかねません。

A、本物の本、ほんとうにいい本とは、どんなものをいうのでしょうか。(2)「子どもにとつていい本」と言うのと、「ためになる本」を連想し、「ためになる本」と言うと、まづ先に伝記を思い浮かべるといふ人が、少なくありません。「子どもが伝記を読むことはいいことだ」という通念は\*ずいぶん根強く、たまたま一冊読み終えたらひどくほめられたので気をよくし、何十冊もある伝記シリーズをはしから読んで小学生時代を終えたという学生もいます。

しかし、伝記というのは、そんなに「ためになる本」「子

どもにとつていい本」なのででしょうか。たしかに伝記というのは、本来はとてもおもしろく、広い意味で「ためになる」ものです。それはなぜかというところ、「偉い人になるための方法」が書いてあるからではなく、現実<sup>えんじ</sup>に生きた一人の人間を通して、過ぎ去った時代があざやかに浮かび上がり、単調なときもあれば劇的なことも起こる本物の人生というものの不思議さに触れることができるからです。B、それを理解し、楽しむには、小学生の読書力では足りません。(3)逆に言えば、小学生にも読めるようにまとめてある伝記は、伝記本来のよさを失い、「貧しくてまんばつて立派な人になりました」といったぐあいの、表面的でうさんくさい教訓話にすぎなくなっている場合がほとんどなのです。

これにはたくさんの弊害<sup>へいがい</sup>があります。まず、読めばほめられ、達成感があるとしても、ほんとうのおもしろさは味わえないので、読むことが好きになるとは期待できません。C、(4)影の部分<sup>かげ</sup>を切り捨てたきれいなことを白々しく感じ、本というものの全体を信用できなくなり、そういうものを読ませる大人にそっぽを向く子どもも出てきます。それに、本来はおもしろいはずの伝記というジャンル自体が①ケイ遠される結果になりかねないのも、もつたない話です。中学生、高校生くらいになれば、ぜひとも真実をゆがめずに書いた伝記を読んでもほしいものですが、小学生で食傷<sup>しよくしやう</sup>してしまうせいか、肝心<sup>かんじん</sup>のその時期にふさわしいような伝記は、探してもなかなか見つかりません。

「ためになる」という判断基②ジュンは、何を「ためになる」とするかによって、おかしな方向に行きかねない危険をはらんでいます。伝記が「ためになる」と言われるのは、教訓や知識が得られると期待されているからでしょうが、教訓や知識だけなら、アニメやマンガでも得られます。事実、歴史マンガは「ためになる」本の部類とされて、学校図書室や学級文庫に置かれていることが多く、もっぱらそればかり読んできたという学生もしばしばいます。歴史マンガなどは、知識を得るのに便利ではあるでしょうが、「ためになる」から「いい本」だと思い、そればかり読んで安心していたら、いざ本らしい本を読もうと思ったときに、読みこなす力がなくて愕然がくぜんとすることになりかねません。

じつはここに、子どもにとって本当にいい本の基本的な条件がひそんでいます。それは、読んだそのとき「ためになる」、あるいは「ためになつたような気がする」だけの本ではなく、あとになって本離れる原因になつたりしない本、**D**、読む力を育ててくれる本であるべきだ、ということ です。これは、大人にとっての読書と、子どもにとっての読書の、大きくことなる点でもあります。ちゃんとした読書力を身につけた大人にとっての読書は、知識や楽しみを得ることが目的ですから、その目的が果たせるならば、インターネットや映画に置きかえても不<sup>③</sup>ツ合はありません。しかし、子どもにとっての読書は、知識や楽しみを得る手段であると同時に、読む力のトレーニングでもあるのであって、ほかの手

段に置きかえるわけにはいきません。一部はいいとしても、全部をほかの手段にゆだねては、絶対にいけないのです。

その意味で、たとえ知識や教訓が得られたとしても、中身の薄いうす小学生向きの伝記や歴史マンガなどは、「いい本」とは言えないことがわかっていただけの思いです。「なんでもいいからたくさん」と言われて数をこなすために読むような本も、もちろんだめです。「読みごたえ」という言葉がありますが、本は、ほどよい歯ごたえがあつてこそ、知らないうちに読む力を育ててくれます。「楽に読めるから」という理由で選ぶような本では、そもそも意味がないのです。

〔読書力とは何か〕脇明子著 ― 子どもにとっていい本とは―  
より 岩波書店)

\*語注

ダイジェスト＝書物などをわかりやすく要約したもの。

ジャンル＝本の種類。

食傷＝同じことに何度も接していやになること。

問一 文中の①②③のカタカナを漢字に直しなさい。

問二 文中の **A** **D** にあてはまる適切なこと

ばを、次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

ア そこで イ つまり ウ でも エ では オ また

問三 ―― 線部 (1) 「本の厚さや文字の多さに比べても

しない読書力」を身につけるためには、どのような能力が必要であると著者は述べていますか。適切な部分を文中から抜き出して答えなさい。

問四 ——線部(2) 『子どもにとつていい本』と言うと、「ためになる本」を連想し、「ためになる本」と言う  
と、まっ先に伝記を思い浮かべるとありますが、それはなぜですか。そのわけを述べている部分を文中から探し、  
初めと終わりの五字で答えなさい。

問五 ——線部(3) 「逆に言えば」とは、何を「逆に言  
えば」なのでしょう。『何を』に当たる最もふさわし  
いものを次より選び、記号で答えなさい。

ア 本物の伝記は子どもにも読みやすいものであること。  
イ 本物の伝記は小学生にも広い意味でためになること。  
ウ 本物の伝記は小学生には害になる場合があること。  
エ 本物の伝記は子どもが読みこなすには無理なこと。  
オ 本物の伝記は小学生に不思議な体験を与えること。  
問六 ——線部(4) 「影の部分」とはどういう意味ですか。  
次の中から最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

ア 主人公を取り巻くその部分  
イ 主人公の生活で難解な部分  
ウ 主人公の生き方の暗い部分  
エ 主人公が生きた真実の部分  
オ 主人公にとつて劇的な部分

問七 ——線部で、著者がいう「ここ」の示す内容とはこと  
なるものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 大人になつても本離れせず豊かな想像力を育ててくれ  
る本を読むことのできる状態。  
イ 学級文庫や図書室に「ためになる」という判断で選ばれ  
た本を置く学校の姿。

ウ 子どもにとつてふさわしくない部分は切り取つて本を  
作ろうとする大人の気配り。

エ 貧しくてもがんばつて立派な大人になるという伝記ば  
かりを読ませる親の考え。

オ 小学生にも読めるようにうまくまとめてあるアニメや  
マンガが本屋にあふれる社会。

問八 **それ**に当たる部分を文中から抜き出しなさい。

問九 本文で著者が述べている、『子どもにとつての望まし  
い読書』とはどのような読書のことですか。次の説明の  
中から最も適当なものを選び、記号で答えなさい。

ア 小学生にも読みやすく、やさしくまとめてあると同時  
に、人間としても立派になれるような、ためになる偉い  
人の伝記を読むこと。

イ 偉い人の一生を、教訓や知識として取りこみやすく、  
絵などを使ってイメージがふくらむようにまとめたアニ  
メやマンガを読むこと。

ウ とにかく多く読むことが読書力を育てるので、速く多  
く読むために、話しの中心になる部分を残すように作ら  
れた本を読むこと。

エ 少しむつかしくても、何度もくり返し読むことで、本  
当の知識や教訓が得られる上に、がまん強い性格になる  
ような本を読むこと。

オ 知識や楽しみを得る手段であるとともに、大人になつ  
た時に深い理解が得られるような、読む力のトレーニン  
グになる本を読むこと。

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

(一) ことまでのあらすじ) この物語は、イギリスを舞台にしたお話です。せまい海をはさみ、フランスに面したエセックスの海岸には大きな沼があります。沼の燈台小屋に住む画家のラヤダー《彼の背中には大きなコブがあり、左手の首はカギ爪のように折れ曲がっていた》は、傷ついた野生の渡り鳥の世話をして、一人で暮らしていました。ある日、傷ついた一羽の白いグース(雁)を抱いた少女が、彼の小屋を訪れました。その日から、孤独な男と少女のひそやかな交流が始まります。やがてヨーロッパでは戦争が始まり、たくさんのイギリスの兵隊がドイツ軍に追いつめられて、フランス側のダンケルク海岸で行き場を失っていました。

フリスはききながら、心臓の鼓動がとまつてしまいそうな気持ちでした。この小さなヨットで、ラヤダーは海峡をわたるつもりだということです。ヨットには一度に六人、むりをすれば七人が乗れます。砂浜から輸送船まで何度も行ったり来たりすればよいのです。

少女は年も若く、野育ちで、思うこともうまく口には出せませんでした。戦争のことも、フランスで何がおこっているのかも、包囲された軍隊という意味もわかりませんでした。そのからだのなかの血が、なにか危険なもののあることを少女に告げるのでした。

「フィリップ！ 行かなくちゃだめなの？ 帰ってこられやしないよ。どうして、あんたでなくちゃだめなの？」

さいしよに一気にまくしたてたせいで、ラヤダーの胸からは興奮がはずまってくれたらしく、今度はフリスにもわかる言葉でもって、(一) そのわけの説明にかかりました。

つまり、こうだったのです。

「兵隊たちがね、狙われた鳥みたいに浜に追いつめられてるんだよ。まるで、狙われて怪我した鳥みたいに。ね、フリス、ほら、ぼくたちそんな鳥を見つけては、保護領に連れてきてやったじゃないか。(二) 兵隊の頭の上には、鉄のハヤブサやタカや大タカが飛びまわっていて、そうしたこわい鉄の鳥から、逃げかかれる場所もないんだよ。みんな、行き場を失って、嵐に打たれて、くるしんでるんだ。ずっとむかし、きみが見つけて沼からここへつれてきて、ふたりして治してやった、迷子の王女さまみたいに。兵隊たちは、助けをもとめてるんだよ。ね、フリス、沼の鳥たちが助けてくれといってるのとおんなじさ。だから行かなくちゃならないんだ。ぼくのでできることなんだよ。そうだ、ぼくにだって。今度ばかりは——今度ばかりは、ぼくだって人並みに、じぶんの務めをはたすことができるんだ」

フリスはラヤダーをまじまじとみつめました。ラヤダーはまるきり変わってしまったのです。(三) ラヤダーはもはやみにくい男でもなければ、ぶざまでもグロテスクでもなく、それはそれは美しく見えました。いまはじめてフリスはそう思ったのです。(四) フリスの心のなかでさまざまものがざわめき、わあわあ叫びたてていました。でもそれをどう言いあらわせばよいか、少女にはわかりませんでした。

「いっしよに行くわ、フィリップ！」

ラヤダーは首を横にふりました。

「君が乗っていれば、兵隊がそのたびに一人とりのこされる

ことになる。一人ずつ、そのたんびにね。やつぱりぼくだけで行かなくちゃ」

ラヤダーはゴムの外套がいとうと長靴ながぐつをつけ、ヨットにのりこみました。そして手をふりながら、うしろにむかつて呼びかけました。

「さよなら、フリス！ ぼくが戻るまで、鳥のせわをしてくれないか」

フリスはじぶんも手をふろうとしてふりあげましたが、中途ちゆうとでとまってしまいました。

「うまくやってきて」フリスはさげびました。それもサクソンの風の言いまわしでした。

「鳥のせわはやつとくわ。ファイリツプ、うまくやってきて！」もう夜でしたが、半月はんげつと星明りと北の空のかがやきとで、あたりはあかるく照り映はえていました。フリスは防波堤ぼうはていの上に立ち、水かさのました河口をすべるように遠ざかってゆく舟ふねを見まもりました。ふいに、うしろの闇やみのなかからばたばたと羽搏はばたく音がして、何ものかがフリスをかすめ、空に飛びたちました。

### 『 中略 』

\* フリスはひとりぼっちで、大沼の小さな燈台小屋とうだいこやにのこり、羽を切られた鳥たちの世話をしながら、何を待つとも知らずただ待ちつづけていました。はじめのうちはしよつちゆう防波堤ぼうはていに出では、むだなこととは知りつつも沖おきに目を馳はせました。あとになると、燈台の物置き部屋もの置きへやをさまよっては、積みあげられたカンバスキャンバスをながめました。ラヤダーは、この荒れ

果てた土地のあらゆる情緒じょうちゆうやかがやきや、そこに住むすばらしい美しい鳥たちのすがたを、それらのカンバスにとらえているのでした。

なかに、ラヤダーがもうずっと昔、記憶きおくをたよりにフリス自身みづかみを描いた絵が見つかりました。まだほんの子供のフリスが、風に乱れたなりをして、おずおずと、傷ついた鳥を胸にかかえ、ラヤダーの家の戸口に立っているところでした。

この絵と、そこに描きこまれたものとは、フリスを、いままでの何にもましてはげしく揺ゆすぶりました。ラヤダーの魂たましいがその絵には盛りこまれていたのです。ふしぎなことに、ラヤダーが(5)スノーグースを描いたのは、あとにもさきにもこの一度きりでした。その雁かり、よその土地から嵐に追われて迷いこんできたこの野生の生きものを通して、フリスとラヤダーとはたがいに友だちを得たのですが、ふしぎなことにその雁は、さいごにいま一度、フリスのところに戻かえってきてくれたのでした。もう二度とラヤダーには会えないことを、彼女に知らせるために。

フリスには、もうとつくに、ラヤダーが戻かえってこないことはわかっていました。あかあかとそまった東の空からスノーグースが舞まいおりてきて、燈台小屋をめぐりながらさいごの別わかれを告げるより、ずっと前から。(6)それは、フリスの身の裡うちにひそむ、むかしながらの血の力によるものでした。

ですから、ある日の暮れがた、あの高らかな耳なれた鳴き声こゑが空からひびくのをききつけたときも、(7)フリスの心は一瞬しゅんだつてはかない望みにときめいたりはしませんでした。

フリスは防波堤に走ってゆくと、舟のもどつてくるはずの遙かな海にはなくて、大空に目をこらしました。スノーグースはその燃えあがる空から、矢のように舞いおりてきます。その光景、その声、そして、あたりにただようその侘しさが、このときフリスの胸のなかで堰を切りました。湧きたち息づまるばかりのまことの愛が解き放たれて、涙となつて存分にほとばしりてたのでした。

野生の魂が、野生の魂を目ざめさせたのです。フリスはじぶんも大きな鳥とともに舞いあがり、ともに夕空を駆けめぐりながら、ラヤダーの言葉に耳をかたむけているような気持ちにさそわれました。

天と地は、ラヤダーの声とともにふるえ、堪えがたいまでにフリスの胸をみたましました。

「フリス、フリサ！ いとしいフリス！ さよなら、愛しいひと」

羽先きの黒くそまつた白いつばさは、羽搏くたびにフリスの心にその声をたたきつけ、フリスの心はそのたびに、こたえるのでした。

「フィリップ！ 恋しいよう」

(8) 一瞬フリスは、スノーグースがもとの古巣におりるかと思ひました。羽を切られた雁たちが、ようこそとばかりににぎやかに鳴きたてていたからです。でも、スノーグースはさつと低空を掠めただけで、ふたたび舞いあがり、なつかしい燈台のまわりに大きな美しい輪を一回描いて飛ぶと、しだいに高く上ってゆきました。

見守るフリスには、それはもはやスノーグースではなく、

A が永遠の別れにさきだち、フリスにさよならを告げているのだとしか思えませんでした。

(「スノーグース」ポール・ギャリコ著 矢川澄子訳 新潮文庫)

\* 語注

エセックス＝イギリス南東部の州。

ダンケルク＝フランス北部の港街。

サクソン風の言いまわし＝古い英語の一方言に似た言い方。

羽を切られた＝怪我を治すため飛べないように羽を切つてある。

カンパス＝画家が絵を描く布・画布。

問一 —— 線部(1) 「そのわけ」の『その』にあたる内容をもくむ一文を文中から抜き出し、初めの五字で答えなさい。

問二 —— 線部(2) 「兵隊の頭の上には、鉄のハヤブサやタカや大タカが飛びまわっていて、そうしたこわい鉄の鳥」の部分で、『そうしたこわい鉄の鳥』にたとえられているものを、漢字三字のことばで答えなさい。

問三 —— 線部(3) 「ラヤダーはもはやそれとは美しく見えませんでした。」とありますが、なぜ前とちがつて美しく見えたのでしょうか。次の中から最も適当なものを選び、記号で答えなさい。

ア 兵隊として戦争に出かけて行こうとするラヤダーの態度が、今までのぶざまで見にくい男と違って、とても立派だったから。

イ いままで興奮して話していたラヤダーが、ヨットに乗ることには自信があるため、今回は冷静に説明をしてくれたから。

ウ ラヤダーは助けようとする兵隊たちを、鉄砲で狙われた渡り鳥と同じように思い、二人で傷の手当てをしてやろうと言ったから。

エ 自分の命のことより、兵隊たちを助けようとするラヤダーの行動には勇気があり、愛にあふれる気持があらわれていたから。

オ 危険なことを平気で行おうとするラヤダーの向こう見ずな行動が、かえって少年のようにさわやかで、好感がもてたから。

問四 ——線部(4)「フリスの心のなかで」少女にはわかりませんでした。」の部分は何ぞそうなのでしょう。

そのわけに当たる部分をふくむ一文を抜き出し、初めの五字で答えなさい。

問五 『——中略——』の部分で物語が前半と後半に分かれます。前後をつなぐ「——中略——」部分のことからの(1)～(5)を組み合わせ、物語がうまくつながるために最もふさわしいものを後から選び、記号で答えなさい。

「——中略——」部分のことから

(1) 兵隊として戦争に加わったラヤダーの勇ましい戦いぶり

(2) 多くの兵隊を輸送船に運んだラヤダーとスノーグース

(3) スノーグースの裏切りとゆくえ不明になったラヤダー

(4) ラヤダーの死を最後まで見とどけたスノーグース

(5) スノーグースとラヤダーのふしぎなつながり

組み合わせ

ア (1)(2)(3) イ (1)(2)(4) ウ (2)(3)(4) エ (2)(4)(5)  
オ (3)(4)(5)

問六 ——線部(5)「スノーグース」を別の表現でたとえている七字の語句を文中から探して答えなさい。

問七 ——線部(6)「それは、フリスの身の裡にひそむ、むかしながらの血の力によるものでした。」とありますが、フリスは『むかしながらの血の力』によって、どんなことを理解していたのでしょうか。「どんなこと」に当たる部分を文中から抜き出して答えなさい。

問八 ——線部(7)「フリスの心は一瞬だつてはかない望みにときめいたりはしませんでした。」とありますが、フリスにとつて『はかない望み』とはどうなることでしょうか。文中のことばを使い、十五字以上、二十字以内で答えなさい。

問九 文中には「野生の魂」という語句が二度つづけて出てきますが、二度目の「野生の魂」が示す意味として、次の中から最も適当なものを選び、記号で答えなさい。

ア ラヤダーのあらゆる生きものへの愛情

イ フリスが生まれながらに持っている性質

ウ スノーグース特有の渡り鳥としての本能

エ フリスとラヤダーしか分らない魂の会話

オ フリスとスノーグースの心の通い合い

問十 ——線部(8)の部分で、作者は私たちにどういうことをわからせようとしているのでしょうか。次の中から最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

ア スノーグースと渡り鳥たちの別れ  
イ スノーグースとフリスの永遠の別れ  
ウ フリスとラヤダーの永遠の別れ  
エ ラヤダーとスノーグースの永遠の別れ  
オ スノーグースのふるさとへの旅立ち

問十一 A に入る最もふさわしい表現を、文中より

六字で探して答えなさい。

問十二 本文中で、作者が私たちに強く伝えたいことがらを、

次の中から三つ選び、番号で答えなさい。

- |     |                              |     |           |
|-----|------------------------------|-----|-----------|
| (1) | ある英雄 <small>えいゆう</small> の一生 | (2) | 深くて広い人間愛  |
| (3) | 大自然の不思議                      | (4) | 自然保護の大切さ  |
| (5) | 画家と少女の愛                      | (6) | 渡り鳥と人間の友情 |
| (7) | 人の運命と戦争                      |     |           |

